

地域事業体を盛り上げる

1 テーマの趣旨・目的

福井県では、令和元年度に「ふくい森林・林業基本計画」において「育てる林業から、儲ける林業・稼げる林業に」を基本理念として、資源循環の森において、主伐・再造林による循環型林業経営を推進していくことを示した。具体的には、「儲ける林業・稼げる林業」「森林管理の負担を解消」「適切な再造林」を目指すため、森林所有者と林業事業体が、主伐から再造林・保育まで10年程度の長期一括契約を締結し、収益のアップと、森林所有者の管理負担解消を目指す、ふくい型林業経営モデルの構築を進めている（図-1）。

嶺南振興局管内においては、主伐に令和2年度から着手しているところであり、地域林業のキーマンである、れいなん森林組合（以下、森林組合）では、国、県の施策や社会情勢を踏まえ、今後、間伐中心の施業から主伐へ事業を拡大する方針である。これに対して普及職員として支援できることを考え実施した。



図-1 ふくい型林業経営モデル

（福井県産材活用課「主伐のチラシ ver.4.5」から引用）

2 現状及びこれまでの取組の成果・課題

(1) 現状

福井県嶺南振興局管内について、総土地面積約 11 万 ha のうち、約 8 万 7 千 ha、80%が森林で、県内の森林面積の 28%を占めている。そのうち、民有林が約 8 万 ha

あり、その 38%が人工林で、人工林のうちスギが 69%、ヒノキが 16%、マツが 15%となっている（図-2）。

林業事業体としては、森林組合とやまさわが地域の林業を担っている。森林組合は利用間伐を中心に集約化施業を実施しており、近年では、主伐・再造林に取り組んでいる。

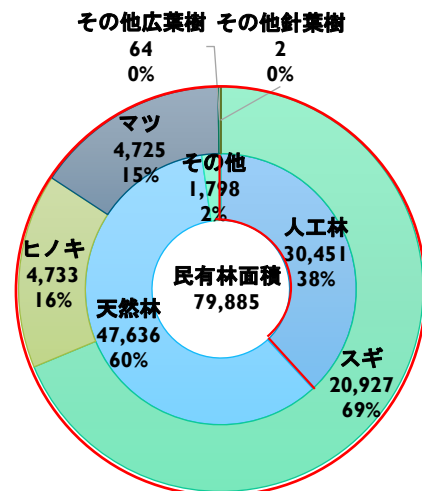


図-2 嶺南振興局管内の状況

(2) 取組内容

支援をする上で森林組合の方々に自発的・積極的にチャレンジしてもらえるよう、指示命令による管理的な方法から、対等な学びあい型のマネージメント的な方法でアプローチすることとした。

具体的には普及職員がファシリテーターとなり、森林組合の方々に「主伐・再造林に取り組むために壁となっていること」をテーマとしたグループワークを実施した。KJ法を用いて、グループ毎にこのテーマに対する課題とその解決策を出し合い、結果を発表してもらった（写真-1）。

課題として、①再造林にコストがかかるため森林所有者の意欲・関心がない。②担い手不足、従事者の高齢化。職員の知識不足。③効率の良い施業方法によるコスト削減などが認識されていることが分かった。



写真-1 グループワークの様子

(3) 成果

この課題に対して森林組合と協働し取組を始めたので紹介する。

①の課題に対して、主伐のモデル地を作ることとした。おおい町福谷地区の主伐計画地において、現地にて、森林資源調査を行い収益を見込んだ。また施業効率化のため、中間土場の設置やそでの材の仕分け、低密度植栽などに取り組んでいる。なお、今年度の主伐計画は、令和4年度の約2倍となる10haを計画しており、着実に事業拡大している。

②の課題に対して、森林組合のInstagramを開設し、週1回森林組合の施業や森のことを発信し、林業就労のきっかけづくりを始めた（図-3）。

また、県内事業体の列状間伐施業地を視察し、得た知識を生かして、管内において列状間伐^{※1}にチャレンジした（写真-2）。

さらに、県内の事業体とオンラインでの意見交換を行い、横の繋がりが生まれた（写真-3）。

③の課題に対して、小浜市中井地区において民有林・県有林を併せた施業を計画し、県、小浜市、森林組合、

地区が一体となって森林整備を推進し始めている。

このように、支援や後押しが輪を広げ、課題解決へ向けて進み始めている。これを「盛り上げ型支援」と名付けて、今後も地域の事業体を盛り上げ、地域林業の活性化につなげていきたい。



図-3 Instagram



写真-2 列状間伐実施後の状況



写真-3 県内事業体との意見交換会（オンライン）

3 今後取り組むべき内容

今後の取組として、主伐のモデル地については、どのように森林所有者へPRしていくかを検討していく。そ

して、資源循環林と環境保全林のゾーニングを行い、林業適地での主伐・再造林を推進していく。

列状間伐については、今年、管内の現場で嶺北の事業者からノウハウを教わり、より効率的な施業を実施し推進していく。

他事業者との意見交換については、れいなん森林組合の現場を外部からの視点で見てもらい、意見をもらい、それを取り入れていきたいと考えている。

施業集約化については、同様の取組を他の地域へ広げていく。

また、効率化という課題に対し、ウインチロープに繊維ロープを導入することや、日報アプリを導入し、DX推進することでさらに効率化を図っていく。そしてどの程度労働負担が軽減されるかを効果検証していく。

※1 福井県の分収造林における森林整備として、環境保全重視の森づくりを推進しており、列状間伐による広葉樹の侵入を促している。